JCI SHOBARA MAGAZINE LIGHT

ソノサキへ
まだ見ぬ景色を求めて

2022 4 April

“市長対談”

― 庄原を魅力ある町へ ―

木山市長と庄原青年会議所の４人のメンバーで庄原市の「魅力」。そして、「未来」へのビジョンについて語り合いました。

■舛元理事長　本日はお忙しい中ありがとうございます。第58代庄原青年会議所理事長の舛元幸起と申します。今年は「ソノサキへ」というスローガンで、会員の成長のソノサキ、青年会議所という団体の将来を見据えたソノサキ、そして庄原の明るい未来に向けたソノサキ、という基本方針に沿って活動しております。市長は、我々にどんなイメージを持たれていますでしょうか。

■木山市長　様々な取り組みを積極的に行っているイメージがあります。1965年の創設以来、半世紀以上の長きに渡り地域社会の正しい発展を図るため、ボランティア活動や青少年育成事業など積極的な取り組みを展開されています。特に庄原市の夏の一大イベント庄原よいとこ祭では実行委員長・委員として祭を引っ張っていただいています。
その他、児童向けのプログラミング講座や多様な働き方の講演会開催など本市のまちづくりの一翼を担っていただき、心より敬意を表します。

■舛元理事長　ありがとうございます。
木山市長とは毎年、市長懇談会という形で様々な意見交換会をさせてもらっているのですが、今年はコロナの影響もありますし外に出て、庄原の魅力を見直す取り組みが出来ないかなと考えています。

■木山市長　それはいいですね。観光巡り？由緒巡り？

■舛元理事長　庄原の名所を回って食事をしながら庄原の未来を熱く語り合いたいと考えています。

■木山市長　今ある観光地を磨くというのもあるし、そこに何かを足したら違う魅力も作ることが出来る。そういう提案があれば欲しいです。

■舛元理事長　まさに今年はそんな内容で地域価値向上委員会という委員会を作ったのですが、地域の今まである価値をしっかりと見直して、また別の視点で新たに価値をつけていこうという内容の委員会です。
まず、人口減少問題についてご意見を伺いたいです。昨年、市の戦略検討班のメンバーの方と人口減少問題を考える意見交換会を実施させていただきまして、その後どういった取り組みに進展したのか、今後市としてこの問題にどう取り組まれるのかというのをお伺いしたいです。

■木山市長　私の市政運営の柱は「庄原いちばんづくり」の「地域産業」「暮らしの安心」「にぎわいと活力」この3つであり、これまで比婆牛ブランドの復活や産科の再開、子ども未来広場の新設、超高速情報通信網の整備、市民会館・庄原自治振興センターの改修など3つの分野別政策で最優先かつ重点的に取り組むべき事業を推進してきました。そのすべては人口問題の解決策であり、そして未来への創造的な事業でもあります。10年後を見据え息の長い、そして常に変化をさせながらやっていく必要があるとの思いで人口減少対策戦略本部を設置しました。

■舛元理事長　我々JCも人口減少問題を痛感しています。おっしゃられるように、人口減少問題は一つの問題ではなく、いろんな側面があると思います。私たちのこれまでの取り組みとしまして、空き家問題に着目して多くの方々に空き家の活用方法を促し、少しでも空き家を減らし、そこに移住者を呼び込もう！という運動を行いました。おかげでその年はいろん

“市長対談” ― 庄原を魅力ある町へ ―

木山市長と庄原青年会議所のメンバーで庄原市の「魅力」。そして、「未来」へのビジョンについて語り合いました。

「やっぱり庄原がいちばん」と思えるまちづくりに取り組みます。

な方にご参加頂いて、さらには移住者も数名呼ぶことができたという成果を挙げることができました。JCは単年度制で、この取り組みは一年で終わりなのですが、今もその担当者は自ら空き家の解決に伴う専門チームを作って、自らがその地域課題に対して活動をしております。JCでの経験を活かして、自らやるというところがJCの良いところの一つだと思います。さらには、若者が地域に残る選択肢や、帰ってくるという選択肢を与えようという取り組みの一環として、合同企業説明会を開催し、そこに高校生に対してのジョブガイダンスを併設した庄原ジョブガイダンスというのを共同でさせてもらいました。それも市内の高校生に向けて、庄原の魅力ある企業を紹介する機会だと思っています。会社や人々が信念をもって仕事に取り組んで、社会に素晴らしい価値を生み出しているというビジョンを持って成長してもらう場でスタッフとして参加しました。これは、今でも庄原でいきいき働く協議会さんが庄原市さんとハローワーク庄原さんと協力し合いながら続いています。そういった意味では人口減少に伴ういろんな課題に対して、庄原青年会議所も独自でいろんな解決策を模索して実施していますが、これからはやはり行政と連携を図って、迅速かつ効果的な運動を推進していかないといけないのではないかと思っています。今後どんな連携や、地域課題に対してどんな取り組みができるのかというのをお聞かせいただきたいです。

■木山市長　まず、市長になったときに言ったのが「庄原いちばん」でした。市職員に意識して欲しいのは「やっぱり庄原がいちばん」という思いです。

３つの柱のうち「地域産業」については、かつて全国を制覇した「比婆牛を蘇らせよう！」と比婆牛の復活をいちばんづくりの目玉としました。次に「暮らしの安心」ですが、庄原で子どもを産み育てる環境を作るための目玉として取り組み、皆さんの悲願でもありました産科再開を成しとげることが出来ました。

予定時間を超えるほど熱い思いを語っていただきました。庄原市の未来の一翼を担えるよう庄原青年会議所のメンバーと思いを共有したいと思います。

また、以前備後庄原駅で行っていた子育て支援センターを見に行った時に、小さな空間で何十人もの親子がおられた。このため小児科と病児病後児保育施設と一体的に子育て支援センターを併設した「子ども未来広場」という場所を作りました。これも、安心して子どもを育てる環境づくりの取り組みのひとつです。

そして「にぎわいと活力」については、まず超高速情報通信網の整備。約40億円という大きな投資になる点から様々な意見がありましたが、庄原にネット環境がないと、将来庄原で事業をする人がいなくなってしまうという若い方々の意見をお聞きし、これに取り組みました。他の自治体にはない高速なネット環境を市内全域に整備することができました。これも若い人や子どもを庄原で育てていこうと思っている皆さんの意見から実現できたことです。今後も市民の皆さんのご意見を伺い「やっぱり庄原がいちばん」と思ってもらえる取り組みをすすめていきたい。青年会議所の皆さんからも積極的な提言・提案をいただきたいと思います。

■舛元理事長　行政は行政でできることを考え行動してくださっていますが、我々も想いは同じく地域のため様々な活動をしています。最後に、青年らしくこんなことをして欲しいなど今後庄原青年会議所に期待することを聞かせていただきたいです。

■木山市長　青年会議所に期待したいことは、若い力で庄原を盛り上げようという原動力をいつまでも持ってほしい。青年会議所での活動を通じて身に着けた力で10年後・20年後庄原のまちづくりの中心を担う方々がおられるものと期待しています。これからも若い皆さんの意見を反映させ様々な分野で連携し実施していくことが必要であり今後益々の活躍を期待しています。

庄原青年会議所も独自でいろんな解決策を模索して実施。

一般社団法人
庄原青年会議所
入会資格／満20歳以上40歳未満
会員募集中
JCI Shobara
〒727−0011 広島県庄原市東本町1−2−22 商工会議所内
TEL／0824-72-2121　FAX／0824-72-9116
ホームページ　facebook　インスタグラム　Twitter
挑戦や経験を積みたい方大歓迎!!

編集後記

ブランディングプロモーション（B/P）
推進委員会 委員長　塩本 一平

この度は貴重な体験をさせていただきました。普段、お話をすることの出来ない市長を直接訪問し庄原市の課題について意見をお伺いしました。特に話の中であった人口減少問題は、庄原市の未来を考えたときに最も大きな課題であり、我々JCの会員減少にも強く影響していきます。私もJCメンバーとして、市民として、小さなことからでも庄原の活性化につながる活動をし、市外県外の方にも庄原をPRしていきたいと思いました。

『LIGHT』には、今年度のスローガンでもある「ソノサキへ」を意味する“まだ見えない光を求めて限界突破”の「光」と「JCI会員にもスポットライトが当たるように」の2つの意味を込めています。